

人と風土が育てた街並み「はんせいじだい藩政時代の街並み」

古い歴史のある津和野のなかでも殿町周辺は、古いたたずまいを残したところである。カトリック教会、藩校養老館跡、郡庁跡、家老多胡家表門など多くの史跡が集中しており、土塀に面した通りの水路には、この付近だけでも2万余匹放流された大小のコイが群遊し、また、季節には、花菖蒲の白や紫の花が武者窓の下の白壁を背景に咲き誇っている。この水路は、坂崎出雲守が津和野の城下町をつくった時に、用水路として掘らせたものといわれており、いわば津和野のシンボルともいうべき存在である。

この街並みを守るため、昭和53年度には伝統的文化都市整備計画が策定され、これに基づく環境保存地区整備事業として、土塀の整備復元、藩校養老館の通用門、代官門、家老門の復元などが行われているほか、住民の手による街並みの清掃美化が続けられている。



所在地 島根県津和野町後田

諸元 延長：200m